

5. 食材性昆虫の食性等の型類

食材性昆虫の木質に依存するパターンは実に様々である。以下、その類型分けを試みるが、その一部に関しては食材性昆虫に加え、木部穿孔養菌性種（ゾウムシ科－キクイムシ亜科の一部、および同科－ナガキクイムシ亜科の大部分）についても適用できる。

まず、木質を資化する全生物については、次に示すその生態学的類型化（Swift, 1977a；一部改変）が考えられている：

[1.] 木材必須生活者（樹種種特異的）

[1.1.] 細胞壁分解者

[1.1.1.] 一次性摂食者・新鮮死組織摂食者

（根腐れ菌，一次性～二次性カミキリムシ等穿孔虫，樹木侵入シロアリ）

[1.1.2.] 二次性腐食者

[1.1.2.1.] 強力分解者（白色腐朽菌，褐色腐朽菌，シロアリ一般）

[1.1.2.2.] 非強力分解者（二次性カミキリムシ等穿孔虫）

[1.2.] 細胞内容物依存者

[1.2.1.] 一次性摂食者・新鮮死組織摂食者（樹皮下穿孔性キクイムシ類）

[1.2.2.] 二次性腐食者（青変菌，樹皮分解菌，細菌）

[2.] 木材任意生活者（樹種非種特異的）

[2.1.] 細胞壁分解者（軟腐朽菌）

[2.2.] 二次性摂食者（土壌真菌，土壌細菌，分解性土壌動物）

[2.3.] 捕食性土壌動物

また木材の分解には①入植段階，②分解段階，③土壌化段階の3段階があり，入植段階は取りつきのきっかけ（風害，虫害，人工的傷つけによる傷）が重要とされている（Swift, 1977a）。

一方これらの類型化は，これを木質関連昆虫に適用しようとした場合，その膨大な多様性ゆえに，個々の昆虫種あるいは昆虫群の性格付けには不十分といわざるをえない。そこでこれらの食材性昆虫を様々な角度から分類し，最終的にそれらの要因を組み合わせることで特定の生態を表すシステムの構築を試みることにする。

以下，(A) 生きた木か枯れた木か，(B) 外樹皮・内樹皮・辺材・心材・髓のどの部分か，(P) 加害材の位置，(C) 炭水化物の利用様式，(N) 有機窒素の利用様式，(R) 栄養共生，(S) 社会性，(E) 摂食するステージ，(D) 休眠性，(H) 宿主特異性^{しゅくしゅ}といった性格付け・類型分けの諸要因とその類型を挙げ，後に食材性昆虫・木質依存性昆虫の分類群別解説（11.）でこの性格付けを記号で示した。ただしこれら食材性昆虫・木質依存性昆虫のすべてにおいてこれらすべての諸要因の性格付け・類型が確定しているわけではなく，表にすれば不明による空欄の方がむしろ多かる。

なお，以下の(A)，(B)，(P)の区分に関しては，Bouget *et al.* (2005)の類別と用語法が示唆的で参考になるが，事実上区別の困難な項目も見受けられる。